



PRESS RELEASE

2018年12月25日

特定非営利活動法人フィールドアシスタント

模擬宇宙生活施設の整備に向けた クラウドファンディングを開始

特定非営利活動法人フィールドアシスタント（事務局：神奈川県横浜市、理事長：村上祐資）は、旧南極観測船「SHIRASE」の船内に「模擬宇宙生活施設」を整備するため、朝日新聞社のクラウドファンディングサイト「A-port」でクラウドファンディングを開始しました。

支援の募集は2019年2月28日まで行います。2月23日より行われる最初のミッションの成否は、次回以降のミッションの実施を大きく左右いたします。つきましては日本初の民間「模擬宇宙生活実験」成功に向け、広く呼び掛けいただければ幸いです。

『日本で最初の模擬火星実験を絶対に実現する』我々の目標達成のため、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

【クラウドファンディングの概要】

いま人類は再び月へ、そしてその先の火星も目指す機運が高まっています。月で暮らしたり、あるいは火星を目指したりするには、人類がこれまで経験したことのないほど長い期間にわたり、限られたメンバーでの共同生活が求められます。現在も国際宇宙ステーションでは半年ほどの「長期滞在」が繰り返されていますが、月面基地や有人火星探査では「滞在」という枠を超えて「暮らし」と呼べる時間を過ごさなければなりません。そこで、初代南極観測船「SHIRASE」の船内に、火星に向かう「宇宙船」を想定した模擬宇宙生活施設を作ります。今回のクラウドファンディングでは、そのための船外活動（EVA）環境や宇宙服などを作る費用を募ります。

日本初の民間「模擬宇宙生活施設」



<https://a-port.asahi.com/projects/shirase/>



★SHIRASE EXP.の詳細はこちらから

<https://www.fieldassistant.org/shirase>

【朝日新聞社と南極観測隊の関係について】

朝日新聞社と南極観測隊との関係は、明治時代に朝日新聞社が白瀬南極探検隊を支援したことになります。隊を率いた白瀬矗は南極探検を政府に陳情しましたが、相手にされませんでした。そこに支援の手を差し伸べたのが朝日新聞社でした。

終戦後10年余のまだまだ貧しい日本において、南極観測の支援に尽力したのも朝日新聞社でした。1957年に第1次日本南極地域観測隊の成立の為、紙面を通じて広く市民に義捐金を呼びかけました。これはまさに現在のクラウドファンディングと言っていいでしょう。

それから約60年が経ち、私たちが初代「しらせ」を宇宙船にする、新たな船出とも言えるプロジェクトの支援を、朝日新聞社の「A-port」を通じて呼びかけさせていただくことに歴史的な意義も感じています。

【フィールドアシスタント代表・村上祐資について】

1978年生まれ、40歳。極地建築家。『地球上の厳しい環境の地にこそ、美しい暮らしがあるはずだ』そう信じて、第50次南極観測隊越冬隊として昭和基地での閉鎖生活を経験。近年はアメリカの火星協会が主催する「模擬火星実験」のクルーに日本人として唯一選ばれ、「日本で最も火星に近い男」と呼ばれるようになりました。今年10月に、日本

での模擬実験を開始するために特定非営利活動法人フィールドアシスタントを設立しました。

【お問い合わせ】

特定非営利活動法人 フィールドアシスタント

担当：栗原（くりはら）

Mail : kurihara@fieldassistant.org

TEL : 090-1555-4336

FAX : 03-3421-8008

URL : <https://www.fieldassistant.org>

★ **This is a Test Email only.**

This message was sent for the sole purpose of testing a draft message.